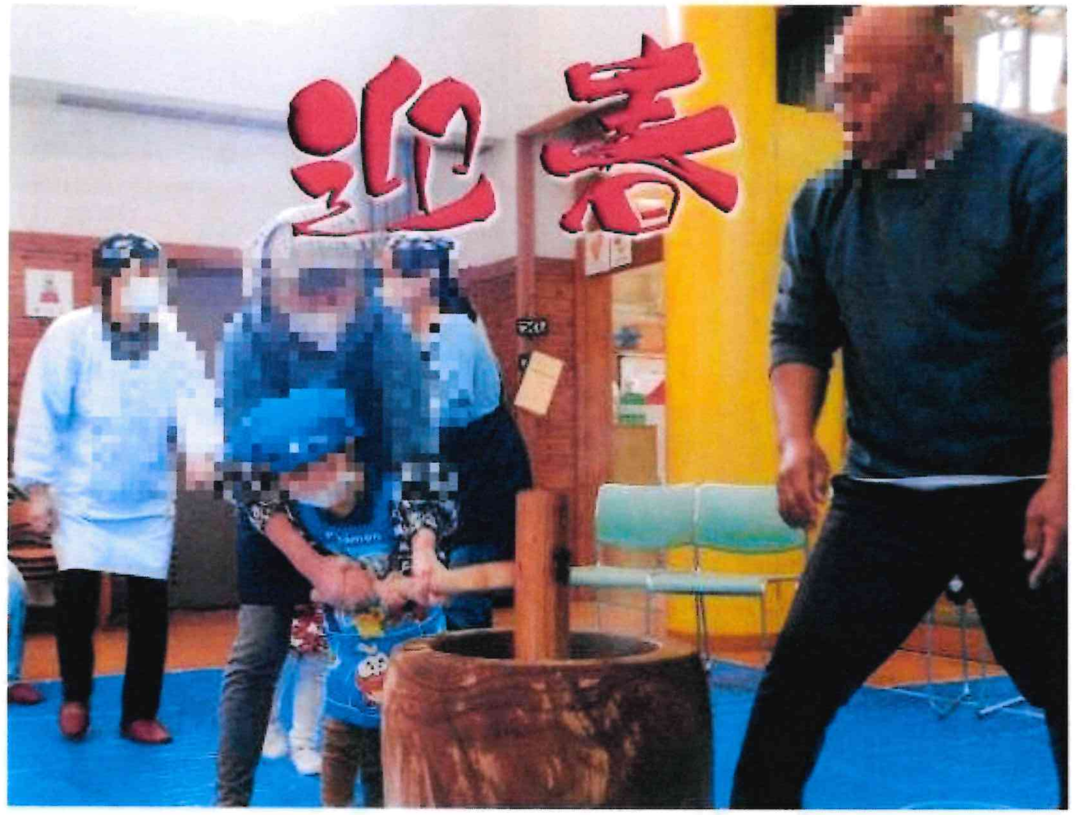


あさやま

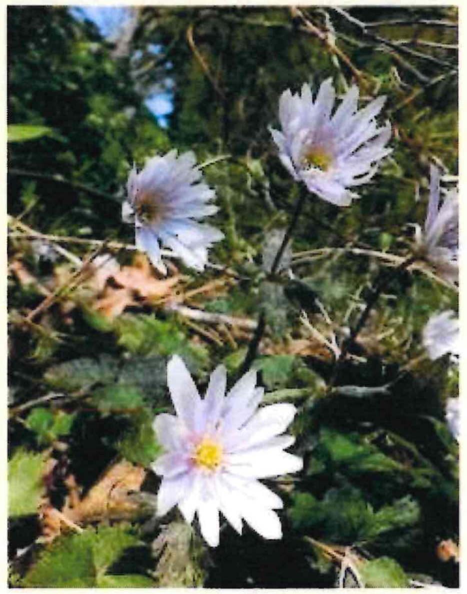
コミュニティセンター広報

令和8年1月31日発行
第97号

朝山コミュニティセンター
事業委員会　広報部

ふるさと朝山で見られる動植物　シリーズ⑳

ユキワリイチゲ



　これまでこのコーナーの中で春一番に花をつける草花として、アマナとイズモコバイモを紹介してきました。スプリングエフェメラル（「春の妖精」又は「春のはかない命」）と呼ばれる早春に咲く可憐な花たちは、3月が開花時期です。発行が年4回の「広報あさやま」では花の時期にタイムリーに紹介することが難しいため、2月中旬に配布されるこの号で、早春に咲く花の3番手としてユキワリイチゲを紹介しようと思います。

　ユキワリイチゲは草丈20～30㎝のやや大型の草花で、漢字では「雪割一華」と書きます。雪が残る早春に雪を割るように春一番に咲くというイメージと、茎の先にイチリンの花をつけることからこの名がつけられていますが、昨年などは3月に雪が降ったので雪の中で花をつけている姿が見られました。本州西部から九州に分布する多年草で、山麓の崖や道端の山際などでまれに見られます。葉は3つに切れ込んでおり白い斑紋があります。花は花茎を伸ばした先端に薄紫色の３㎝ほどのきれいな花をつけます。花が瑠璃色をしていることから、「ルリイチゲ」の別名もあります。この花は天気がよいときに花びらをいっぱいに開きますが、雨の日や朝夕などには花を閉じていることが多いです。所原の民家の裏庭で見事な群落を拝見したことがあり、意外なところにも咲いているかもしれませんので、3月中～下旬の天気のよい日にぜひ捜してみてください。　馬木町　佐藤仁志

年頭にあたって

朝山地区自治協会
会長 板垣勝正

　新年明けましておめでとうございます。

　旧年中は、朝山地区自治協会の運営、活動に対しまして、ご理解とご協力を頂き、厚くお礼申しあげます。

　昨年は、夏の猛暑、令和の米騒動、熊被害の深刻化。物価高等々身近で生活に直結する事案が目についた年でした。

　朝山地区では昨年、運動会は雨で中止となりましたが、文化祭には多くの出品、出店を頂きにぎやかに開催することができました。

　十一月には、令和六年、七年度指定を受けています出雲市同和教育指定事業の研究発表会が開催され、地区内外から二〇〇人を超える方々の参加を得、充実した発表会となりました。

　昨年はまた、防災、災害に大きな役割を担っています消防団組織再編が行われ、三部制から二部制へスムーズに移行が図られました。

　この他、各団体で取り組まれた事業も円滑に実施されました。これも一重に地区民の皆様や各団体の皆様のおかげと感謝申しあげます。

　今年は市長に要望した道路、河川等インフラ整備の前進。熊、サル等有害鳥獣対策。学校教育環境の支援と将来像の検討等を意見を頂きながら粘り強く進めていきたいと考えています。皆様方の一層のご協力をお願い致します。

　新しい年が、良き年となりますよう祈念し年頭の挨拶と致します。

朝山地区の動き・お知らせ

10月26日(日)

朝山地区　文化祭

獅子舞

南中 吹奏楽部

オープニング 朝山幼稚園

JA しまね出雲地区
南部ブロック
直売所

南中 フリーマーケット

おんぼらあと

満水リレー

1月5日(月)

子供サロン（書初め）

（青少年部事業）

朝山地区の子供たち２０人が、書初めに挑戦しました。
出来上がった書初めは、各地区のとんどさんに持ち帰り、
字が上手になるよう祈願します。

世帯数と人口

2025.12月末現在（昨年同期）

世帯数	601戸	(593戸)
人口(男)	712人	(722人)
人口(女)	831人	(840人)
計	1,543人	(1,562人)

12月1日(月)

歳末特別警戒出動式（朝山安全パトロール隊）

出動式の後、朝山地区内をパトロールしていただきました。

新年の抱負　～人生の節目を迎えて～

長寿番付

横綱（百四歳）
青木　廣様（桜下）
勝部ふで子様（殿）

大関（百歳）
鳥屋尾初子様（馬木下）
成相　義子様（桜上）
青木　秋子様（大月）

関脇（白寿九十九歳）
今岡ミツエ様（殿）

※年齢は数え年です

米寿を迎えて

奥井　貞江（殿森下）

今年、米寿を迎えることが出来たのは、朝山の方々をはじめ多くの方々の良きご縁のおかげと、深く感謝をしております。

健康づくりや地元の方々と触れ合える場として始めた「この指とまれ体操クラブ」には、月に一回出かけており、今年で十五年目になります。だんだんと人数は少なくなりますが、参加された方の元気な笑顔が、とても嬉しいです。

また、朝山グラウンドゴルフ同好会に入会しており、上手にはなれないけれど冗談を言いながら楽しんでいます。

祖母、義母、主人とを見送り、…次…私…。年齢とともに増える「もの忘れ」、記憶力が衰え「言葉を話す」、「判断する」などの働きをする脳の活性化のため、「手で書く」、「覚える」、「脳に保存する」、「思い出す」という作業を繰り返しています。体力と認知能力が減衰しつつありますが、毎日を前向きに過ごすために、残り少ない人生を多くの方との出合いを大切にし、毎日を笑顔でおしゃべりしたり、お茶会をしながら、良き想い出を残し、感謝をしながら・・・。

ありがとうございました。

渡部　勲（見々久下）

八十八年の人生、山あり谷ありでしたが、家族や地域の皆様方に支えられ、米寿を迎えることが出来たことに感謝しております。

私は、早く母を亡くし、父が再婚により家を離れたため、早い時期から一家の大黒柱として、田畑の仕事に従事してきました。三十五歳の時に、一念発起して、キノコの人工栽培としては島根県で初めてとなる「しめじ茸生産センター」を知人と設立し、以後、三十六年間、好不況もあり大変でしたが、何とかやっていくことができました。

現在、妻と二人暮らしで、水稲やミョウガなどの栽培を行って日々暮らしております。また、今まで仕事ばかりの人生でしたが、グラウンドゴルフが今の生きがいとなっており、いろいろな大会に参加させていただき、様々な人と交流ができ、皆さんから元気をもらっております。

残された人生、一日でも長く元気に過ごし、大好きな農業やグラウンドゴルフに精一杯勤しみたいと思っております。

喜寿を迎えて

佐藤　仁志（馬木中）

昭和二十五年早生まれの私は、同級生たちが昨年喜寿を迎えたなかで今年迎えることになります。これまでの七十五年の人生を振り返ってみると、世の中の進化が目まぐるしくとても激しかったと思います。燃料革命やＩＴの急速な進展などなど、子供時代には想像もできなかったような変わりようで驚かされます。

そんな中で、ふるさとの自然もずいぶん変わってきました。雲井瀧（ういたき）を例に上げれば、小学生時代通学路からよく見えていた滝の姿が、最近はほとんど見えなくなってしまい残念に思っていました。雲井瀧は古くは滝そのものが信仰の対象であり、朝山神社は雲井瀧を祭る神社と言われています。樹木が成長し昔見られたような姿がほとんど見られなくなったこの滝の姿を、なんとか見えるようにしたいと思い各方面に呼びかけを行いました。その結果、コミセンや朝山神社、雲井瀧景観保存会の皆様のご尽力で成長した樹木頂部の伐採を行い、神戸川沿いからよく見えるようになりました（広報あさやま第九十四号参照）ので、知谷橋あたりからぜひ見てください。

朝山地内には、雲井瀧の他にも多くの誇れる自然が残っています。その一部でも紹介しようと思い、この広報あさやまの中に「ふるさと朝山で見られる動植物」コーナーを設けていただき、いろいろな動植物を紹介してきました。このコーナーが少しでも皆さんの参考になり、ふるさと朝山の郷土愛につながっていけば幸いと思っています。

三﨑　重美（馬木北）

昭和三十二年、朝山小学校に入学以来、六年間の授業の思い出は記憶が薄れたが、昼食の弁当の時間（四年生頃までは給食なし）、下校時の楽しい時間は鮮明に蘇る。自然豊かな山・川・畑。通学路を大きく外れ、びしょ濡れになりながら魚を追いかけた神戸川。顔中紫色にし、学生服（白いシャツだったかも）の両ポケットいっぱいに詰め込んで帰った桑の実。美味しく実った柿や栗。木の登り方、想定外時の逃げ方などノウハウは総て先輩から教わった。運悪く逃げ遅れて近所のおじさんから雷が落ちたこともあった。

私が生まれた馬木北町は、斐伊川合流事業で町並みは大きく変わったが、心温かい人情感の朝山地区は今も昔も変わらない。

今年喜寿を迎える喜びに感謝し、今までご指導頂いた諸先輩方、お世話になった地域の皆様に、残された余生を微力ながら「恩返し」が出来たらと思っています。

吉田　義徳（西田上）

本年、喜寿を迎えることができました。

顧みますと、ＪＡ、関係施設で四十八年間、皆様にお世話になりながら職務を終えて十一年が経過しました。

今後も少しばかりの米づくりと趣味を楽しみ、コミセン活動にも参加させてもらえたらと思います。

また、幸せなことに神迎えの社として知られる朝山神社の麓に住まいしております。神徳をいただき感謝しながら一日いちにちを大切に生きてゆければと思っております。

これからもどうぞよろしくお願いします。

増原　静子（桜上）

昭和四十七年、二十代で嫁いできて朝山で暮らして五十年以上、今年、喜寿を迎えました。朝山と聞いて母は心配しました。その頃、市の水道は引かれていませんでしたし、電話は当時、朝山郵便局にあった交換所で人の手で作業されていたため、朝山地区以外へはダイレクトにつながりませんでした。

でも、住めば都。春秋の自然の恵み、空気と緑がきれいで神戸川は澄んでいました。その頃、うちの工場に勤めていたおじさんが、自分でとったと云ってモクズガニを持ってきてくれましたし、家へ遊びに来た友人と二人、神戸川で泳いだこともあります。子供たちが学校に通うようになると、ＰＴＡ、お母さんたちとの交流も多くなり、朝山を見る眼がグンと広がりました。運動会でも学習発表会でも、子供の顔を見れば、親さんの顔、おじいさんおばあさんの顔が浮かぶので、盛り上がりも大きなものがあります。

今、そんな朝山も良いことばかりではありません。特に切実なのが国全体の問題でもある人口減少、少子高齢化です。小学校は統合されて一校になりましたし、幼稚園は三クラスで十名にも満たない現実があります。いずれは、ＪＡや郵便局なども地区からなくなる可能性もあります。行政の方でも対策を考えられているのでしょうが、何か私達にできることはないのでしょうか。

今年の元日の山陰中央新報には、「郷土愛を行動で表そう」という社長による年頭所感が載っていました。『誰もが郷土愛、ふるさと愛を持っていると思う。それを一歩進めて、具体的な行動で表そう。』というものでした。それには、『都会から来る若者や旅行者、帰省客、スポーツ選手をただ温かく見守るだけではなく、何か困りごとはないかなと相談に乗る▼地域の祭りや行事への仲間入りを促す▼楽しい友達の輪に誘う…といった、積極的に手を差し伸べる行動を広げたい…。』と書かれています。

平成三十一年三月の朝山小閉校時の記念誌にはたくさんの人が寄稿されています。『小学生の時、たくさんの地域の人が、体験学習や本の読み聞かせなどでかかわって下さり、僕たちを見守って下さった。』とあります。また、平成十六年、朝山小卒業という男性は『朝山小の思い出や、同級生、地区の方とのつながりが、大学卒業後、朝山に戻ってくるきっかけの一つになった。』と書かれています。

朝山の人達みんなが今一度、『郷土愛を行動で表し』先の男性のように、一人でも多くの人が朝山へＵターン、あるいはＩターンして下さり、もう一度、多くの若者、子供たちの元気な声が聞こえる町にしたいものです。

還暦を迎えて

成相　智恵子（桜谷）

明けましておめでとうございます。

令和八年午年、おかげさまで還暦を迎えることができました。結婚して三十六年になり、人生の半分以上を朝山で過ごしてきたことになります。とは言え、これまでは仕事や卓球の事で忙しくしており、朝山のことはまだまだ分からないことだらけだなと感じています。

昨年、還暦を前にして、三十七年間の教職生活を終え、今までとは違った生活を始めたところです。少し時間の余裕ができたので、自分のことや家のことをしたり、孫たちと遊んだり、そういう時間を大切にしていきたいと思っています。そしてこれからまだまだお世話になるこの朝山で、地域の活動にも参加させてもらいながら、少しでもお役に立ちたいと思っています。

今後は二周目の人生を益々充実したものにするためにも、健康に留意して明るく元気に過ごしていきたいと思っています。

これからもどうぞよろしくお願いします。

奥井　いづみ（堂原）

明けましておめでとうございます。

今年は五回目の年女を巡り、丙午（ひのえうま）の還暦を無事に迎えることができました。丙午の迷信はいつも何かしら言われてきましたが、生まれて今まで大きな怪我や病気もなく、何も事件は起こらず、とても幸せに暮らしております。この年に生んでくれた今は亡き両親に感謝は勿論ですが、三十九年前に嫁いで、右も左も分からない私を温かく迎えてくれた家族や地域の皆様のお陰と感謝しております。

嫁いだ頃は、見るもの聞くもの何もかもが新鮮でワクワクしていたと思いますが、「奥井」が多い地域で名前を屋号で名乗られ、とても戸惑ったことを覚えています。まずは町内の地図をかいて屋号を覚えたものでした。また、新しい環境に早く慣れるよう、いろいろな行事や分団対抗スポーツ大会に参加して人と名前を覚えました。今では懐かしい思い出です。

今年の午年は、炎のような情熱と勢いのある年になると言われています。情熱とまではいきませんが、馬のように飛躍の年でありますように頑張っていきたいと思います。

これからもこの朝山でお世話になりますが、今後ともどうぞよろしくお願い致します。

宇畑　博昭（御方）

令和八年午年、おかげさまで還暦を迎えることになりました。私が生まれた昭和四十一年は、六十年に一回の丙午の年で、同級生も大変、人数が少ない年でした。地域の方々に支えて頂き、今日まで健康でこられたことは大変ありがたいことだと思っています。大変感謝しております。

長女が朝山幼稚園に入園する時に、生まれ育った見々久町の方へ帰って来ました。子どもが子ども神楽を始めたのをきっかけに、見々久神楽の方に入らせて頂きました。元々、神楽を見るのは好きでしたが、いざ自分がやってみると大変で、今までも毎回勉強です。近年では、営農組合の方でも活動させて頂いております。

まだまだ未熟者ですが、感謝の気持ちを忘れずに、これからは地域社会に少しでも貢献できるようにと思っています。

皆様、これからも、どうぞよろしくお願いします。

四十二歳を迎えて

増原　拓哉（知谷）

新年明けましておめでとうございます。

この度、四十二歳という節目を迎え、これまでの歩みを振り返る中で実感するのは、多くの方々とのご縁、繋がりがあったからこその今日までの自分があるのだと改めて思うところです。

日々の暮らしの中で、家族は最も身近な支えとして変わらない安心と前に進んでいく力を与えてくれました。共働きで忙しい両親に変わり学校から帰ると出迎えてくれた祖父母には今でも仏壇の前で感謝しています。

また、地域の皆さまには登下校の時に温かくお声がけして頂いたり、子供の頃の私では、分からなかった多くのご配慮をいただいていたと思います。心より、お礼申し上げます。

四十二歳を迎えた今、改めて家族を大切にすると共に、朝山の一員として微力ながら貢献できればと思います。

今後ともよろしくお願い致します。

二十歳を迎えて

江角　康生（朝山中）

新年、明けましておめでとうございます。

この度、たくさんの方々の支えのおかげで、無事に二十歳を迎えることができました。心から感謝申し上げます。

私は現在、幼い頃からの夢だった料理人を目指して、日々料理の知識や技術習得のため修行中です。どの職業にも当てはまりますが、料理の世界は、特に人を思いやる気持ちや感謝する気持ちがとても大切だと考えています。知識や技術があっても、このような気持ちがなければ、良い物は作れないからです。自分は料理人としても、人としても未熟なのでこれからも日々精進して参ります。

二十歳を迎えられたことに感謝し、大人としての自覚を胸に、学び続け、失敗を恐れず、どんなことにも挑戦していく一年にしたいと思います。

鳥屋尾　美鈴（朝山中）

新年、明けましておめでとうございます。

この度、二十歳という節目の年を迎えることができました。これまで支えてくれた家族や地域の方々への感謝を改めて感じています。

私は現在、大学で医療について日々学んでいます。人の命や健康に関わる分野を学ぶ中で、知識だけでなく、責任感や思いやりの大切さを実感しています。

まだまだ学ぶことばかりですが、講義や実習を通して一つ一つの経験を糧に成長していきたいです。そして、信頼される医療人を目指して努力を続けていきたいと思います。

今後ともよろしくお願い致します。